

事業者：一般社団法人農林水産物・食品輸出直取引化推進協議会

計画概要

青森県産リンゴの輸出において、大半が東京・横浜港から輸出されている現状を踏まえ、CO₂排出削減やドライバー不足への対応として、青森～京浜間のトラック輸送を海上輸送へと切り替え、モーダルシフトを推進するほか、八戸港で輸出通関を行うことで八戸港の国際物流拠点化・産直港湾化の推進を図る。

目標

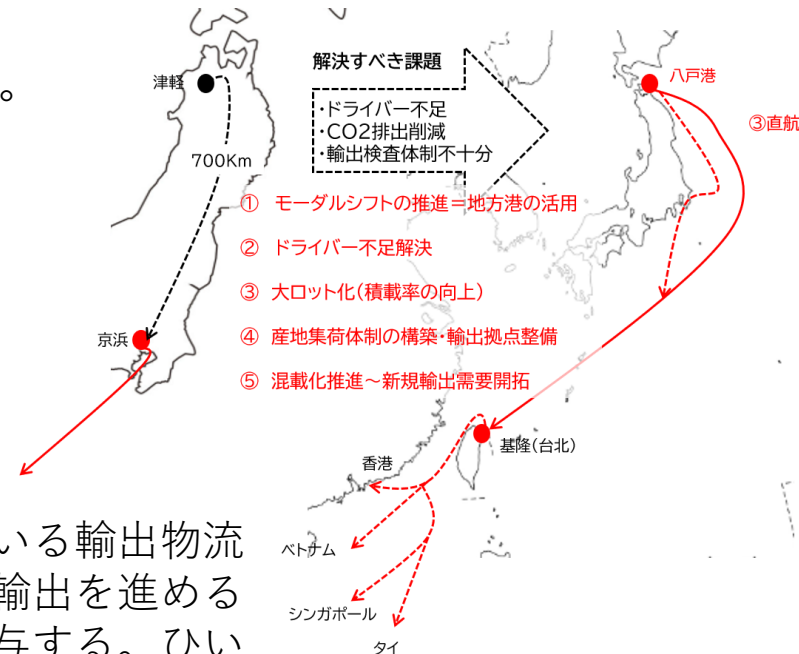
目標年度（2029年度）までに、以下の目標を達成する。

- ・ 輸出物流単価（流通コスト）を減少させる。
現状：49.60円/kg→目標：34.12円/kg（▲31%）
- ・ 温室効果ガス排出量を削減させる。
現状：19.55t-CO₂→目標：12.01t-CO₂（▲38%）
- ・ ドライバー稼働率（労働生産性）を向上させる。
現状：1,711キロトン/日/人→目標：2,640キロトン/日/人（35%）

食料システムへの寄与

八戸港で輸出物流を行うことで、首都圏に流出している輸出物流に係る売上を地域に還元するほか、八戸港からの定期輸出を進めることで、地域の農林水産物・食品の輸出量の増加に寄与する。ひいては、八戸港の国際物流拠点化を進めることで、八戸港周辺への食品加工業等の集積化を通じた地域の付加価値創出に寄与する。

計画のイメージ



(2026年6月17日認定)